

戦乱の地 富士宮

戦国時代のはじまり

戦国時代の始まりとされる「応仁の乱」は、室町幕府8代将軍・足利義政の跡継ぎ問題など、幕府のさまざまな内部争いや対立をきっかけに起こりました。

この乱は、1467年から約11年間続き、京都を中心に全国の守護大名*（地方を支配する領主）が激しく争いました。

戦国時代とは、この室町時代後半から、江戸時代初期までの約150年間を指します。

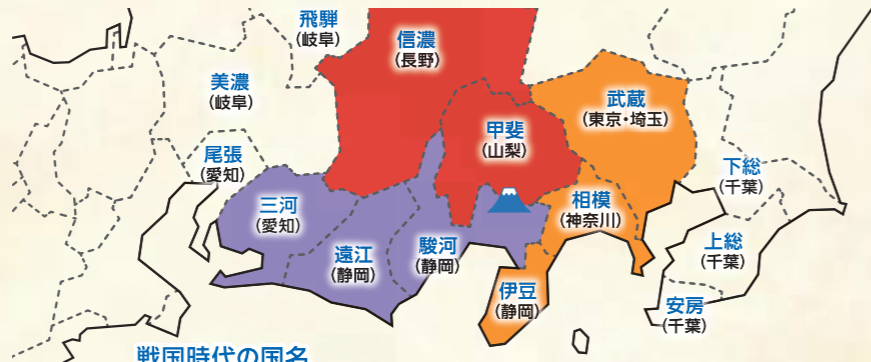
*幕府から命じられて、国内の軍事・警察の仕事や御家人を統率していた守護が、力をつけて国を支配するようになった大名

年代	時代
紀元前	旧石器
	縄文
100年	弥生
200年	飛鳥
300年	
400年	奈良
500年	
600年	平安
700年	
800年	鎌倉
900年	
1000年	南北朝
1100年	
1200年	室町
1300年	
1400年	戦国
1500年	
1600年	安土桃山
1700年	
1800年	江戸
1900年	
2000年	明治
	大正
	昭和
	平成
	令和

勢力が入り乱れる戦乱の地

戦国時代の富士宮は、駿河国*1・遠江国*2・三河国*3などを支配する今川氏、甲斐国*4・信濃国*5などを支配する武田氏、伊豆国・相模国*6などを支配する北条氏の勢力が入り乱れていました。

桶狭間の戦い(1560年)の頃の勢力図

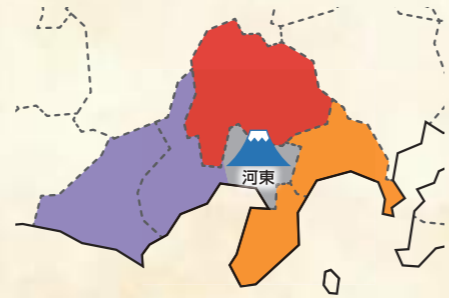


戦国時代の国名 (現在の都道府県名)

- 今川氏の支配地
- 武田氏の支配地
- 北条氏の支配地

- *1 富士宮市を含む静岡県東部(伊豆を除く)・中部
- *2 静岡県西部
- *3 愛知県の東部・中部
- *4 山梨県
- *5 長野県
- *6 神奈川県西部

1537年から1545年まで、今川氏・武田氏と北条氏との間に、河東一乱という大きな争いが起きました。この乱は、駿河国の河東(富士川の東側地域)の支配権をめぐるもので、富士宮市域は両者が争う戦乱の地となりました。



1568年以降、武田氏は駿河国に領地を拡大しようと、駿州往還と中道往還(甲州街道)を通して今川氏の拠点がある駿府(静岡市)を攻めました。このとき、駿府に向かう途中にあった今川氏の大宮城(大宮小学校周辺)が攻撃を受けました。



富士宮にゆかりのある戦国大名*(戦国武将) ※戦国時代に実力で国を支配した大名

今川氏



南北朝時代から駿河国の守護を務め、戦国時代には駿河国や遠江国などを治める戦国大名に成長した。武田氏による駿河国の侵攻や徳川家康による遠江国の侵攻などにより滅亡した。

「海道一の弓取り」の異名を持つ今川義元

徳川家康



江戸幕府初代征夷大将軍

三河国の岡崎城に生まれ、子どもの頃は「竹千代」と呼ばれた。竹千代は、6歳から織田氏や今川氏のもとで過ごした。

19歳の時、桶狭間の戦い(1560年)で今川義元が織田信長に討たれた後、家康は今川氏のもとを離れた。家康は、信長と協力関係(清州同盟)を結び、この関係は約20年間続いた。

今川氏と武田氏の滅亡、織田信長の死、数々の戦乱などを経て、1582年10月、家康は、駿河国・遠江国・三河国・甲斐国・信濃国の5カ国を支配する大規模な戦国大名となった。



家康は富士宮で、家臣に命じて、戦乱で被害を受けた大宮の浅間神社(富士山本宮浅間大社)やその周辺の復興、交通路の整備などを行った。

武田氏



南北朝時代から甲斐国の守護を務め、戦国時代には甲斐国や信濃国などを治める戦国大名に成長した。

1575年の長篠の戦いでの敗戦、織田信長や徳川家康による甲州征伐などにより滅亡した。

戦国最強の騎馬隊を率いた武田信玄

北条氏



北条早雲を初代とし、その後4代にわたり相模国小田原(神奈川県小田原市)を本拠地に、関東で成長した戦国大名。

1590年の豊臣秀吉による小田原攻めにより滅亡した。

北条氏繁栄の基礎を築いた伊勢盛時(北条早雲)